

導入事例 株式会社 AraifaM さま（広島県庄原市）



作付回転の効率化と消毒管理で アプリが増収を後押し。

- ☑ 作付け回転数の効率化 →年1作分出荷量がUP
- ☑ 消毒管理の向上 →病害虫による廃棄が削減・出荷量がUP
- ☑ 圃場管理・経営力の向上 →管理時間の削減、来年度は圃場拡大へ

今回は広島県庄原市の株式会社 AraifaM 様のアプリ導入事例をご紹介します。
緑豊かな中国山地に囲まれ、西日本でも最も寒冷な気候に属する広島県庄原市。
同園では標高約 583m の地でほうれんそう 70a と水稲など栽培されています。



早速ですが、マネベジを使い始めたきっかけを教えてくださいませんか？

【新井さん】「以前はエクセルで栽培記録を管理していましたが、アプリを何か使うとなった時に実はマネベジ以外のものも検討したんです。でも他のアプリでは初期設定や圃場の登録などが複雑で、その時点で自分のところには向いていないと諦めました。そんな時、広島県のスマート農業実証事業で開発したアプリのテスト版として紹介されたのがこのマネベジの前身となる「営農支援アプリ」でした。

このマネベジプロトタイプを使ってみて自分にはこちらがあると感じたことと、使い勝手もシンプルで良いと思ったのでないので使いはじめたのがはじまりです。」

マネベジの機能で一番気に入っているところはどこですか？

【新井さん】「複数入力の機能が便利ですね。1日7棟、8棟同様の作業をすることがあるので一括で入力できるところがいいと思います。」

アプリを使うようになって何か変わったことはありますか？



【新井さん】「以前はエクセルを使っていたので、過去の記録は PC を立ち上げないと確認できなかったのが、今ではアプリでいつでも見られるので圃場の管理が手軽にできるようになったと思います。」

【指導所 坂口さん】「普及員としても作業された内容がリアルタイムで分かるのがありがたいです。あ、今日はこんな作業されたんだな、ということが現地に行っ
て聞いたり電話をしなくても記録された内容を基に、会話が進められるので役に立っています。」

アプリを使った事でどんなメリットがありましたか？

【新井さん】昨年度、ほうれんそう品目のみで前年比 119% の増収を確認しました。

増収の要因として、まず一つは**作付回転数が上がったことが挙げられます。**

2022年マネベジ利用開始当初は3回転、2023年は4.5回転、2024年は5.5回転と年々約1回転づつ作付が順調に増やすことができました。

もう一つの要因として考えられるのは、**昨年は特にマネベジのおかげで消毒管理がうまくいったことです。**

冬のほうれんそうの生育には75日～90日ほど必要です。例えば2週間の抵抗性をもつ農薬を使用するとして、現場ハウスでマネベジの記録を確認しながら、実際の草丈サイズとマネベジの記録を見ながら現状の生育日数と出荷までの残りの日数を計算しながら2週間の抵抗性がどのタイミングであると良いかを考えながら消毒の管理ができたことはとても良かったです。

マネベジを使って、ダニが出た作付、散布した農薬のうちどれが効果があったのか、など記録を見返していくことにも役立ちました。振り返りや分析の結果、この農薬を次作に使おう、という判断材料があったのは良かったです。

それから昨年は**圃場の管理が季節を通して良かった**なと感じています。特に夏は県内ほかの産地でほうれんそうがどこもできないなか、うちだけ生育がよく出荷することができました。

一昨年は春の暖気で一気に生育が揃って収穫が追い付かず破棄することもありましたが、今年は40a圃場を増やして、合計1.1haとなってもマネベジがあれば管理ができる気がしています。

開発当初からアプリを使い続けてくださっている新井さん。今年は棟別単価の把握や作付け計画の改善を目標にされているそうです。弊社でもユーザーのみなさんに使いやすいようにアプリをどんどんアップデートしてしていく予定ですので、今後も araifaM 様の営農をサポートしていけたら嬉しく思います！ 本日は貴重なご意見とアプリのフィードバックをありがとうございました！